



なかましんぶん

H31年3月1日 VOL96 小川和代



月日の経つのはあっという間で、今年度もあとひと月になりました。そして、長い時間一緒に育ち合った仲間との別れ、一つ大きくなる新しい春がすぐそこまでせまってきました。

こどもの傍らで生活していると、日々の価値こそ一番大切なのだと気づかされます。せいぜい数日後のことしか視野に無い子ども達の日々は何もかも全力投球で、今を生きているからこそ輝いています。人生いつからか、受験のために、就職のために、老後のために・・・と今を我慢して生きることを余儀なくされます。目標のための今のステップはもちろん大切ですが、本当の価値は結果ではなく、その過程が輝いていることかもしれないですね。毎日何かを追い、まだまだだと思えば、どんなにステップアップしても先を見据えるもので、今日をなんとなく過ごせば、きっと明日もなんとなく過ぎてしまう。結局大切なことってその人自身が自分の経験から感じ学ぶ・・・どんな方法で、どんなことを・・・何もかもその人らしい学びの過程が続いていく事でしょう。

将来に現れる結果ばかりにとらわれず、その道に向かう日々の過程に笑顔が溢れ、人との触れ合いに心温まり、何かができることを喜びささやかな達成感がちりばめられ、何もかも真剣で貴重な味わい深い毎日であることを願っています！

またひとつ大きくなあれ！！

心の中のオニ

豆まきのオニやクリスマスのサンタクロースは、数百年も続く長い営みです。とても怖い思いをしたことも、ワクワクしたことも、私たちにとって、大きな意味のあることだからこそ、こんなにも長い間すたれることなく、盛大に続いているのでしょう。それぞれの経験から心に刻んだ「意味」こそ、親から子へ伝えたい「思い」なのでしょう。

豆まき会が終わって、一週間余りのある日、子ども達がお腹に住んでいるオニの話をしていました。「食いしん坊オニ」「ママや先生のいう事を聞かないオニ」・・・ある日は、散歩の途中落ちていた赤い手袋を見つけ、「オニの手？」「俺が守ってあげる！オニなんかこわくない！」・・・それぞれ違う「意味」や「思い」への気づきから、この子たちもまた親となり我が子と豆まき会をするのでしょう。こうして目に見えないけれど「非認知能力(内なる力)」は日々育ち、大切に確かに受け継がれていきますね。

オニをやっつける

角箱や武器をせっせと用意する子ども達。自由な発想で、とてもユニークかつ奇想天外な角箱や武器が沢山できました。それぞれの自信作は、それぞれの心のお守りにもなっています。「これさえあれば百人か！！」という感覚がこどもの可愛さですよ！いざ、鬼の登場となると、備えあれども憂いだらけで縮み上がる子ども達。その中に、自分自身の怖さと戦い、仲間を守ろうとする年長さんが毎年出現します。きっとこの子たちの記憶には怖くてたまらなかつた経験や、年長児に守ってもらった経験が刻まれているのでしょうね。こんな思いも経験から湧き出てくること・・・何をどう経験するかってことは、人生の大きなミッションですね。それを経て人はどんどんバージョンアップしていくのですね。

道草 作詞しんざわとしひこ

まわりばかりを気にしていると
自分のことが見えなくなるよ
他人の服はきれいに見える
自信を持っているように見える
あせらない あせらない 君の歩く道は
石ころだらけで素敵じゃないか
あせらない あせらない 水たまりに映った
空があんなにきれいじゃないか

自分一人で生きられるほど
力もないし 勇気もないし
人に合わせて生きていくほど
素直じゃないし 器用じゃないし
あせらない あせらない 君の歩く道が
人には道草に見えたとしても
あせらない あせらない 風に揺れる花が
君の来るのを待っていたんだよ